

東日本大震災にかかる追悼集会

平成28年3月11日（金）2Fスペース

今日3月11日は、5年前に東日本大震災が発生した日です。

あれから5年がたちますが、私たち日本全体が深い悲しみに包まれた日でした。5年たった今でも、たいせつな家族や友人を亡くした方や、被災した人たちの苦しみは続いています。そのことを忘れずに、いまでも悲しみ苦しんでおられる人たちに心をよせてほしいと思います。

今考えなければならないのは、みんなの未来です。今、何をしなければならないのか。それは、これからの福島の未来をみんなで切り開いていくことです。今、報道番組で見た福島の現象を踏まえ、仲間とともに、「感謝」と「思いやり」の心を持って、明るい未来にしていきたいと思います。

みんなは今まで、たくさんの防災教育を受けてきました。二年生は去年学習旅行で閑上地区で体験活動を行いました。そのときに感じたことをいつまでも心にとめておいてほしいと思います。

学習旅行のあとに書いた文章をすべて読ませてもらったとき、一人一人真剣に考えていて、その考えをずっと覚えていてほしいと思いました。改めてほんの一部ですが振り返ります。2年生は思い出してください。1年生は聞いて考えてください。

「ビデオを見たり、話を聞いたりしてとても悲しくなりました。涙が出そうになりました。震災の日も、住民の人たちは互いに「おはようございます」とあいさつを交わして学校へ行ったり、出かけたりして幸せな朝を迎えていたんだろうと思います。それから…。2時46分に震災が起きました。いつものようにあいさつをしたり、住民や家族と話をしたりしてきた日々はどれだけ楽しかったんでしょう。きっと、そこには「思いやり」があったのんだろうと思います。心と心がつながっているからこそ、そんな日々が過ごせたのんだろうと思います。」

「親よりも先に子どもが亡くなってしまったり、親が亡くなってしまい、おじいちゃんやおばあちゃんと過ごしている子どももいると知りました。子どもを亡くした親も親のいない子どももとても複雑な気持ちでずっといるのかと思うと、私も悲しいです。自分がもし、そうなったら耐えられるかわかりません。(略)中学校も取り壊されてしまうというので、自分たちの校舎で勉強できていることが幸せだと思います。これからは一生懸命、生きたいです。」

「僕たちが、学校にいられること、ご飯を好きなだけ食べられること、帰られること、一秒一秒を大切にすること、このようなことを大切にして、生きていきたいです。」

「私たちは震災を経験して、2～3年違うところに住みましたが、津波はありませんでした。家もあります。転校した人もいますが、亡くなった友達はいません。それに私たちはマスク、乾パン、帽子、筆記用具、服、メッセージを日本各地はもちろん、海外からも数え切れないほど、いただきました。私たちには地震をなくすことなんて、津波を起こさないようにすることなんて、できませんが、自分たちがしてもらったように誰かを助けることはできると思います。」

内堀雅雄福島県知事の「福島未来へ2016～3月11日知事メッセージ」が掲載されました。途中から読み上げます。

～略～

ふくしまの子どもたちは、自分の夢や希望に向かって立ち上がり、歩みはじめています。

『私は大学に進学し、地域振興について学ぶ。

今は村に帰ることはできませんが、震災前よりも豊かな村に変えていきたい。』

—中通りに避難した高校2年生の希望

『人々にぎわい、どんなことにも負けない福島県を築き上げる。

これからいっぱい勉強して、復興に役立つような職業に就きたい。』

—浜通りの小学5年生の決意

『2020年のオリンピック・パラリンピックが開かれるまでには、

世界各国の人々に自慢できる福島県の自然や環境を取り戻したい。』

—中通りの中学2年生の決意

私が描く、ふくしまの未来。

ふるさとを愛し、笑顔を輝かせる子どもたち。

～略～

自分の夢や目標に向かって挑戦を続ければ、必ず未来を切り開くことができます。

未来のかたちを描くのは、私たちです。

新しいステージへ自らの足で大きく踏み出し、

愛するふるさとふくしまの未来ともに創っていきましょう。

平成28年3月11日

福島県知事 内堀 雅雄

明日の新聞に掲載されます。ぜひ読んでください。

自分の未来をしっかりと考えましょう。そして、一つずつ実行し実現させていきましょう。